

## 令和4年度 学校運営評価調査及び学校関係者評価結果

### I 目的

富良野看護専門学校の理念・教育目的・目標に照らし、自らの教育活動を通して評価し、教育水準の維持・向上及び創意工夫のある教育の追求を図ることを目的とする。

### II 対象

#### 1 学校運営評価

- 1) 評価対象：教務課 10 名、事務課 2 名の計 12 名
- 2) 調査票配布数 12 部、回収 12 部、有効回答 12 部
- 3) 調査時期：令和 5 年 1 月 6 日～13 日
- 4) 調査内容：調査票は集計結果別紙 1 のとおり。自記式無記名。
- 5) 結果分析：4 段階の評価尺度を点数化し「4 十分満たしている」を 4 点、「3 満たしている」を 3 点、「2 改善の余地がある」2 点、「1 改善が必要である」1 点とし、8 領域カテゴリー、25 評価項目の平均点を算出した。

#### 2 学校関係者評価

学校関係者評価実施要綱に基づき、各学校評価委員より意見等を頂戴し文書での評価とした。別紙 2

### III 結果

学校運営評価調査結果は 8 カテゴリーの平均点は 3.34 であり、「3 満たしている」であった。平均点以上のカテゴリーは「II 教育課程・教育活動」3.60、「VI 財政・施設設備の管理」3.54、「I 学校運営」3.53 の 3 つであり、平均点以下は「V 学生生活の支援」3.36、「III 学習成果」3.33、「IV 入学・卒業対策、就業・進路支援」3.22、「VII 教職員の能力の向上」3.15、「VIII 広報・地域活動」3.00 の 4 つであった。

評価項目 25 項目中平均点以上の項目は 14 項目 (56.0%)、平均点以下は 11 項目 (44.0%) であった。平均点以下の 11 項目で「3 満たしている」9 項目であり、2 項目が「2 改善の余地がある」であった。その 2 項目は「IV 入学・卒業対策、就業・進路支援」『14 卒業生への支援を行っているか』2.92、「VIII 広報・地域活動」『25 地域社会の一員として、貢献しているか』2.67 であった。

調査票内容を変更し調査を実施した結果、従来と同様の傾向にあった。この 3 年間は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「現状を維持すること、外部にむけた教育活動を自粛すること」を余儀なくされた。感染状況を概観しながら、今回の結果を踏まえて教育活動の拡大にむけて取り組みたい。

### IV 課題改善に向けて

調査結果から、次の課題の改善に向けて取り組む。

- 1 地域社会との交流・活動をはかりながらカリキュラムを展開する。
- 2 現状のカリキュラム評価、調整、情報共有しながら、よりよい看護教育にむけて教育活動を実践する。
- 3 単位取得にむけて、学生への切れ目のない継続的な支援を行う。
- 4 入学応募者の確保にむけた分析と課題を明確化し、その方策を具体化する。
- 5 学生の意見・要望を聞きながら、学生とともに学校運営を実践する。
- 6 臨地実習の臨場感を体験できる教材・教具の整備、授業展開に取り組む。
- 7 個々の教職員は自己の教育力向上にむけて、教育環境の改善・整備に取り組む。
- 8 地域社会の一員としてボランティア活動等を実践する。

## 集計結果

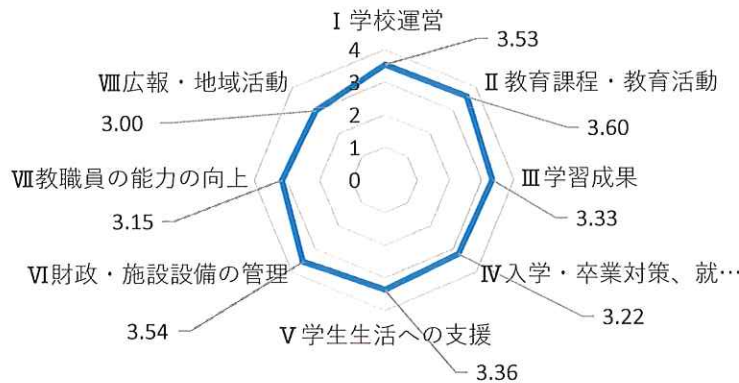
カテゴリー	評価項目	平均点		
I 学 校 運 営	1 学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定しているか	3.67	I	3.53
	2 コンプライアンスを重視した学校経営がなされているか	3.75		
	3 組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか	3.17		
II 教 育 活 動 課 程	4 教育目標を明示するとともに、卒業時の到達目標を分析しているか	3.70	II	3.60
	5 教育内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか	3.60		
	6 体系的なカリキュラム運営が行われているか	3.60		
	7 評価について公平性・妥当性が保たれているか	3.60		
	8 実習時の安全体制が整っているか	3.50		
III 学 習 成 果	9 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか	3.40	III	3.33
	10 国家試験の合格率100%となるよう、教職員が一丸となり取り組んでいるか	3.30		
	11 退学率の低減を図っているか	3.30		
IV 支 援 策 ・ 入 学 ・ 就 業 ・ 卒 業 対 し の 支 援 策	12 入学応募者の確保に努めているか	3.58	IV	3.22
	13 就業・進路支援に取り組んでいるか	3.17		
	14 卒業生への支援を行っているか	2.92		
V へ の 支 援 活 動	15 健康管理、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか	3.75	V	3.36
	16 学生の主体的な活動を支えているか	3.17		
	17 学校経営に学生の意見を反映されるように努めているか	3.17		
VI 備 の 管 理 ・ 施 設 設 置	18 予算計画、年間計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか	3.58	VI	3.54
	19 災害など非常時の危機管理体制は整っているか	3.42		
	20 施設設備及び教材が整い、安心・安全が確保されているか	3.50		
	21 学生の主体的な学習の場が確保されているか	3.67		
VII 上 の 教 職 員 の 能 力 向 上	22 教職員は看護教育力向上に努めているか	3.20	VII	3.15
	23 教職員の能力向上にたいする取組を支援する環境があるか	3.10		
VIII 地 域 活 動 ・ 広 報	24 学校をPRするために積極的な広報活動をしているか	3.33	VIII	3.00
	25 地域社会の一員として、貢献しているか	2.67		

# 令和4年度 学校評価集計結果

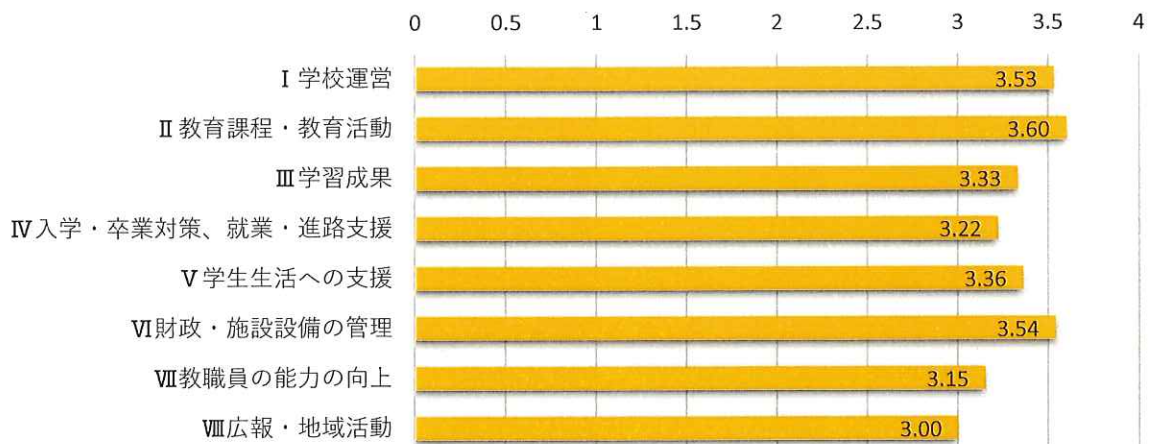
## 領域別平均

評価項目	令和4年度
I 学校経営	3.53
II 教育課程・教育活動	3.60
III 学習成果	3.33
IV 入学・卒業対策、就業・進路支援	3.22
V 学生生活への支援	3.36
VI 財政・施設設備管理	3.54
VII 教職員の能力向上	3.15
VIII 広報・地域活動	3.00
平均	3.34

## 領域別平均

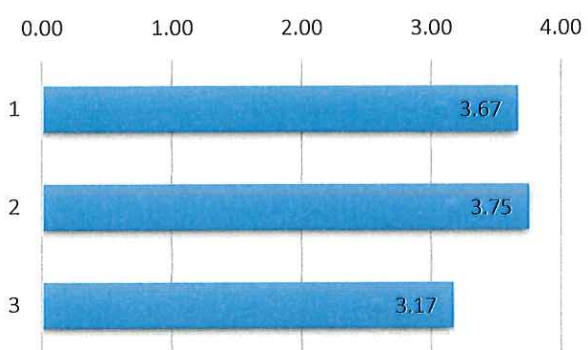


## 領域別平均

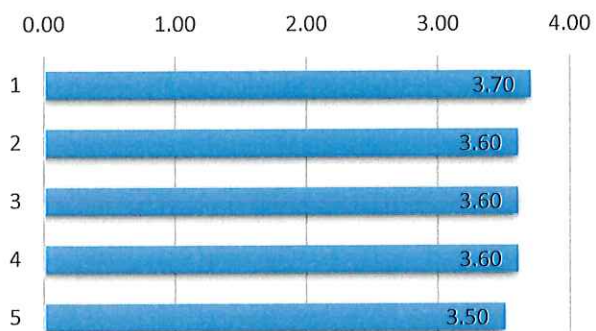


## 領域別項目別集計結果

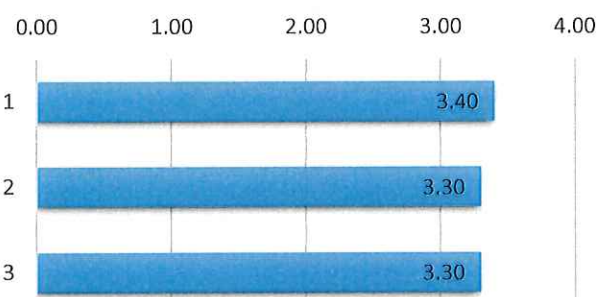
### I 学校運営



### II 教育課程・教育活動



### III 学習成果



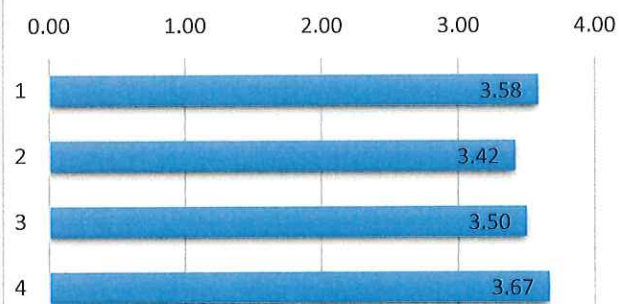
### IV 入学・卒業対策・就業・進路支援



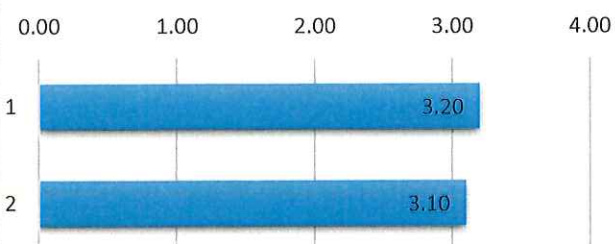
### V 学生生活への支援



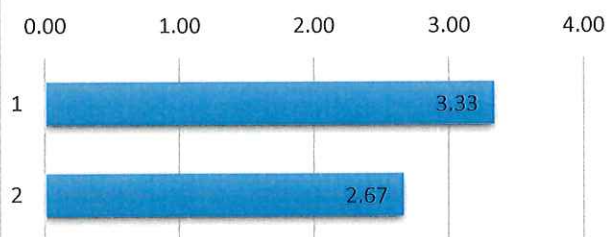
### VI 財政・施設設備の管理



### VII 教職員の能力向上

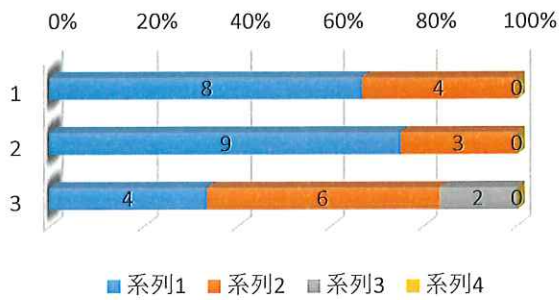


### VIII 広報・地域活動

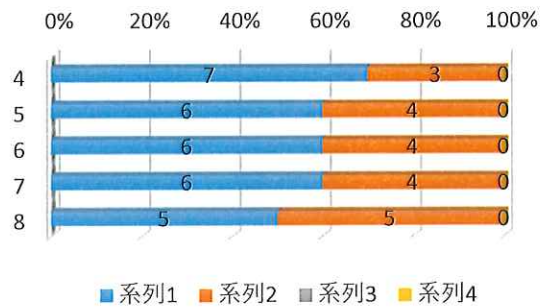


評価集計結果

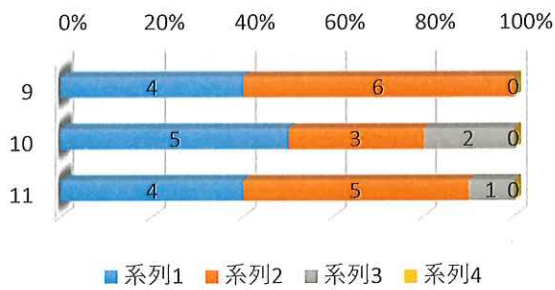
1 学校運営



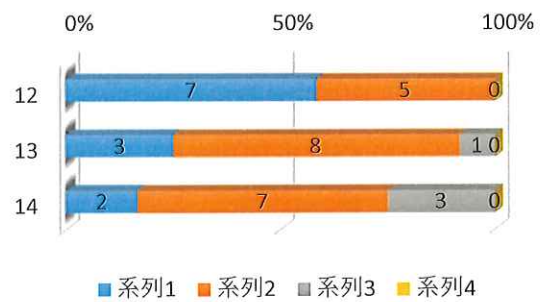
II 教育課程・教育活動



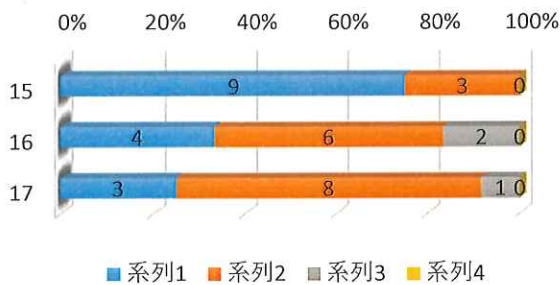
III 学習成果



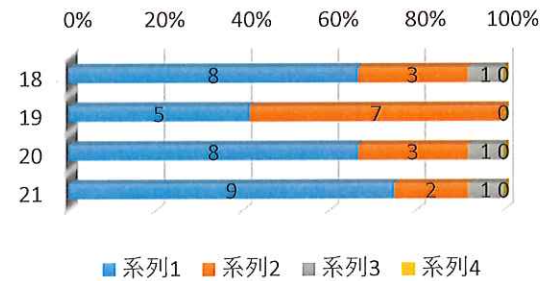
IV 入学・卒業対策、就業・進路支援



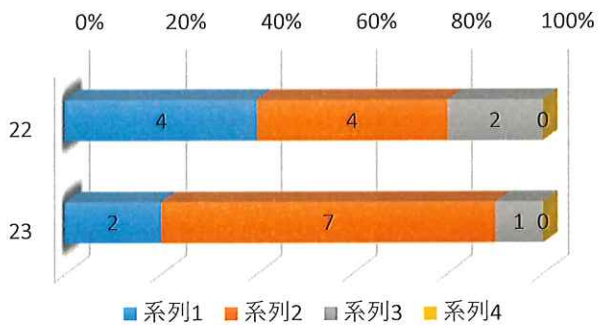
V 学生生活への対応



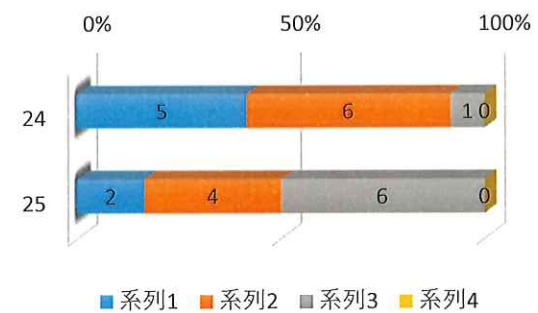
VI 財政・施設設備管理



VII 教職員の能力の向上



VIII 広報・地域活動



調査結果	学校関係者評価	分析
<p>1 領域別カテゴリー</p> <p>領域カテゴリーの平均点は3.34であった。平均点以上の領域は『I 学校運営』3.53、『II 教育課程・教育活動』3.60、『V 学生生活の支援』3.36、『VI 財政・施設設備の管理』3.54であった。平均以下の領域は『III 学習成果』3.33、『IV 入学・卒業対策、就業・進路支援』3.22、『VII 教職員の能力の向上』3.15、『VIII 広報・地域活動』3.00であった。</p> <p>上位の領域順は、『II 教育課程・教育活動』、『VI 財政・施設設備の管理』、『I 学校運営』であり、下位の領域は『VIII 広報・地域活動』、『VII 教職員の能力の向上』であった。</p>		<p>評価尺度は「4_十分に満たしている」、「3_満たしている」、「2_改善の余地がある」、「1_改善が必要である」の4段階とし点数化した。</p> <p>領域カテゴリーの平均点は3.34であり、「3_満たしている」に該当する。学校運営の評価視点からみると総括的なカリキュラムに基づいた教育活動、学生生活の支援、ハード・ソフト面での教育環境の整備は整っていると言える。しかし、学生個々への具体的な対応や地域社会との交流・活動には課題がある。</p> <p>コロナ禍3年間は臨地実習の実施を優先し、対外的な教育活動は自粛していたため、学生の地域社会との交流活動、教職員の学会・研修会等の参加も制限していた。新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を目視しながら、自粛や制限を緩和しながら教育活動を遂行し、通常の学校運営に取り組みたい。</p>
<p>2 評価項目</p> <p>評価項目25項目中「4_十分に満たしている」、「1_改善が必要である」は0項目であり、「3_満たしている」は23項目(92.0%)、「2_改善の余地がある」は2項目(8%)であった。平均点3.34以上は25項目中14項目(56.0%)であり、平均点以下は11項目(44.0%)であった。平均点上位の領域と評価項目は、『I 学校運営』の「コンプライアンスを重視した学校運営がなされている」3.75、『V 学生生活の支援』の「健康管理、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っている」3.75、『II 教育課程・教育活動』の「教育目標明示す</p>		



調 査 結 果	学校関係者評価	分 析
<p>るとともに、卒業時到達目標分析しているか」3.70、『VI 財政・施設設備の管理』の「学生の主体的な学習の場を確保しているか」3.67であり、平均点下位の領域と評価項目は『VII 広報・地域活動』の「地域社会の一員として、貢献しているか」2.67、『IV 入学・卒業対策、就業・進路支援』の「卒業生への支援をおこなっているか」2.92、『VII 教職員の能力の向上』の「教職員の自己教育力向上に対する取組を支援する環境にある」3.10であった。「地域社会の一員として、貢献しているか」と「卒業生への支援をおこなっているか」は「改善の余地がある」2点台の平均点であった。</p>		
<p>3 領域カテゴリーと評価項目 『I 学校運営』 3項目 平均点 3.53 3項目中2項目は高い平均点であった。具体的には「学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定している」3.67、「コンプライアンスを重視した学校運営がなされている」3.75であった。「組織全体でチーム力を発揮した取組をおこなっている」3.17である平均以下であった。</p>	<p>・「組織全体でチーム力を発揮した取組を行っている」3.17について、今後コロナ禍が落ち着いたとして、どのような体制作りを取組むのか早々にプランを立てていく必要があると感じました。</p> <p>・職員間連携は例年の課題となっています。理由を明確にし、改善強化を期待します。</p>	<p>「組織全体でチーム力を発揮した取組をおこなっているか」は、「2_改善の余地がある」とする割合が16.6%であった。具体的な評価視点では③「組織内でタイムリーな情報共有を図っている」が課題である。</p> <p>全体で共有すべき情報を誰に報告すべきか、緊急性等を個々人がどのように判断し行動するかが重要である。組織全体でチーム力を発揮できるような体制づくりに取り組む必要がある。</p>
<p>『II 教育課程・教育活動』 5項目 平均点 3.60 8領域カテゴリーの最上位の平均点である、5項目中すべてが平均点以上の3.50～3.70であった。</p>	<p>・平均点を上回る結果が出て大変良かったと思います。教員一人一人の意識づけがあったんだと感じます。今後も継続できることを期待します。</p>	<p>令和4年度から改正カリキュラムを運用している。令和3年度に改正カリキュラムの検討、作成を全教員で実施した。共通理解の下でカリキュラムの運用ができていけると言える。</p>

調査結果	学校関係者評価	分 析
<p>具体的な評価項目と平均点は、「教育目標を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか」3.70、「教育内容は、教育理念・教育目標を一貫性があり。時代の要請に応える内容になっているか」3.60、「体系的なカリキュラム運営が行われているか」3.60、「評価について公平性・妥当性が保たれているか」3.60、「実習時の安全体制が整っているか」3.50であった。</p>	<p>・カリキュラム作成を教員協働で行った成果が評価に明確に表れていません。このことからカリキュラムの評価、再編も教員協働にて行うことが望ましいと考えます。</p>	<p>今後も現状のカリキュラム評価、調整しながらよりよい看護教育にむけて教育活動を実践したい。</p>
<p>『Ⅲ 学習成果』 3項目 平均点3.33 領域カテゴリーの下位の平均点であり、3項目中2項目は平均以下であった。具体的な評価項目と平均点は、「学生の単位取得に向けた支援を実施しているか」3.40、「国家試験の合格率が100%になるよう、教職員が一丸となって取り組んでいるか」3.30、「退学率の低減を図っているか」3.30であった</p>	<p>・カテゴリーの下位平均点だったが国家試験の結果は100%きたしているため、評価できると考えます。実習時間が少ない中、この平均点で抑えられたことは頑張ったとしても良いかと思いました。</p> <p>・退学者の件についてですが、支援を心掛けて温かく見守り気軽に話せる状況はできていると思います。今後も支援の継続をお願いします。</p> <p>・過去5年間の退学者9名2.8%は多くないと思いますが、留年を選択する学生もいると思います。実習病院としても、個々の学生状況に応じて対応していきたいと思います。</p> <p>・引き続き感染状況の変化に振り回され度重なる予定の変更等強いられた大変なご苦労があったと思います。その中で工夫をしながらカリキュラムを中断することなく進められ学習成果を発揮していることに敬意を表します。</p>	<p>学習成果は日々の学生指導、カリキュラムの運用による看護教育実践の成果である。ほぼ平均点であり、「3_満たしている」と評価できるが課題を明確にし、取り組む必要がある。</p> <p>看護師国家試験合格率は過去5年間の結果は3回100%であり、全国平均よりも高かった。学生の学習状況により内容・方法を検討しながら実施している。「2_改善の余地がある」とする割合は16.6%あった。今年度の取り組み過程で学校主導となり「学生の主体性」を尊重した取組だったかの振り返りがあった。学生の希望・要望や個別性を尊重し、自ら国家試験合格にむけて学習環境を整え、サポートする方針に変更し進行中である。</p> <p>「退学率の低減を図っているか」は、「2_改善の余地がある」とする割合が8.3%であった。過去5年間の退学者9名(2.8%)、その理由は学業不振からの進路変更、心身の休養等であった。個々の学生の状況に応じて丁寧に対応し、後悔のない意志決定にむけた支援を心掛けている。</p>



調査結果	学校関係者評価	分 析
	<p>・看護師国家試験合格率 100%。簡単に実現できることではないと思います。</p>	<p>評価視点では①「未修得科目をもつ学生の継続的な支援を行っている」、④「退学者の状況を把握・分析、指導に生かしている」について、改善を明らかにし切れ目のない学習支援が必要である。</p>
<p>『IV 入学・卒業対策、就業・進路支援』</p> <p>3項目 平均点 3.22</p> <p>領域カテゴリの中でも下位の平均点あり、3項目中1項目は平均点以上であったが、2項目は平均以下であった。具体的な評価項目と平均点は、「入学応募者確保に努めているか」3.58、「就職・進路指導に取り組んでいるか」3.17、「卒業生への支援をおこなっているか」2.92であった。「卒業生への支援をおこなっているか」2.92と評価項目の中でも平均点2点台と低かった。</p>	<p>・入学確保については、コロナの影響がかなり大きいと考えられます。実習病院がクラスターだと中々前に進みにくいことも考えられます。今後コロナが落ち着き、本来の状況に戻り応募が増えることを願います。</p> <p>・卒業生への支援については、「カミングホーム」の実現ができることを期待します。</p> <p>・アンケート調査も紙面では中々本音で書きにくいこともあるかと思えますので、SNSなどを活用するのも良いかと思いました。</p> <p>・卒後の支援については、卒業生が何を望んでいるかということも大事だと思います。遠方だと来校も難しいと思うので、Zoomなどを活用することで個別又は共有できる場として検討してみるのも如何でしょうか。</p> <p>・評価点から入口（入学）支援は十分な成果を発揮していますが、出口（就職卒後）支援に改善の余地があるようです。どうしても手薄になりがちな出口対応ですが、就職先からの信頼評価につながり、学校の評価自体を上げることにもつながりますので、取り組む価値はあるように思います。</p>	<p>「入学応募者の確保に努めているか」は、高い平均点であったが、18歳人口の減少、看護系大学志望者の増加、都会志向等の要因が複合し、受験者数の減少、定数割れが顕著となっていることから、喫緊に入学応募者の確保に向けた分析と課題を明確化させ、その方策を具体化することが必要である。</p> <p>「就職・進路指導に取り組んでいるか」は、「3_満たしている」「2_改善の余地がある」とする割合が多かった。就職・進路指導は担任が中心となり指導し、面接の練習や小論文は他の教員と協力しながら実施している。</p> <p>しかし、就職・進路指導の基本的な指導指針は明確ではない。</p> <p>「卒業生への支援を行っているか」は「2_改善の余地がある」の割合が25%であった。現在、卒業生からの相談がある場合は随時、対応している。昨年の評価では「カミングホーム」として卒業後6か月位に来校し、各自の思いを語る・共有できる場を設定したいとしたが実現できていない。</p> <p>評価視点の①「卒業生の就業継続への支援をおこなっているか」、③「卒業半年、1年後の不安、困りごと、悩み等のアンケート調査を実施している」に対し、「2_改善の余地がある」との調査結果であったが、本校では卒業生からの相談は少ないが、必要時個別に対応できているものと評価している。</p>

調査結果	学校関係者評価	分 析
<p>『V 学生生活の支援』</p> <p>3項目 平均点 3.36</p> <p>3項目中1項目は平均点以上あり、全評価項目中でも最上位の3.75であった。他の2項目は平均点以下であった。具体的な評価項目と平均点は「健康管理、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っている」3.75、「学生の主体的な活動を支援しているか」3.17、「学校運営に学生の意見が反映されるようつとめているか」3.17であった。</p>	<p>・学生への健康管理など担任を中心に指導が定着されている。今後も継続して下さい。</p> <p>・主体的な活動については、活動に制限もあり致し方ない部分もあったと思いますが、今後活動できることを期待します。</p> <p>・学生が学業に集中して取り組めるよう支援体制を整え、実践されていること素晴らしいことと思います。学校の主体は学生でありますので、今後とも学生への支援を充実させ、学生の思いに寄り添った学校運営に努めていただくようお願いします。</p>	<p>学生の健康管理、経済面、精神面への支援はクラス担任を中心に健康管理、カウンセリングによる指導が定着されている。経済面ではコロナ禍での生活困窮者への支援にも随時、対応できていたことが平均点以上だったと言える。</p> <p>学生の主体的な活動を指導指針の基本としているが、コロナ禍で活動は自粛や制限があり、主体的な活動には至っていない。さらに学校運営に学生の意見の反映もできていない。今後は学生との話し合いの場を設け、意見・要望を聞きながら、学校運営に取り組みたい。</p>
<p>『VI 財政・施設設備管理』</p> <p>4項目 平均点 3.54</p> <p>領域カテゴリの中でも上位の平均点であり、4項目すべてが平均点以上であった。具体的な評価項目と平均点は「予算計画、年間計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか」3.58、「災害など非常時の危機管理体制が整っているか」3.42、「施設設備及び教材が整い、安心・安全が確保されているか」3.50、「学生の主体的な学習の場を確保しているか」3.67であった。</p>	<p>・学校の教育に対する環境作りは出来ていると思います。Wifi、インターネットの環境整備できたことに感謝致します。状況に応じた対応が出来ており評価できます。今後も継続願います。</p> <p>・ICT活用基盤の整備は病院でも今や必須となっていますので、社会状況に合わせた環境と教材の充実を引き続きお願いします。</p>	<p>コロナ禍でオンライン授業に対応できるように学内、学生寮にwifiのインターネット環境を整備した。非常勤講師との対応だけではなく、新型コロナウイルス感染症陽性者、濃厚接触者の学生が自宅でも講義を受講できる環境を整えることができた。臨地実習から学内実習への変更が多いことから、より現実的で臨場感のある教材・教具を計画的に整備できた。</p> <p>今後もインターネット環境や臨地実習の臨場感を体験できる教材・教具の整備・充実を図る必要がある。</p>
<p>『VII 教職員の能力の向上』</p> <p>2項目 平均点 3.15</p> <p>領域カテゴリの中でも下位の平均点であり、2項目ともに平均点以下であった。具体的な評価項目と平均点は「教職員は自己教育力向上に努めているか」3.15であった。</p>	<p>・隣地実習が少ない中、学内実習を余儀なく行われた中、教員の自己教育は中々難しいと思われませんが、今後に期待します。</p> <p>・例年課題となっている項目ですが、教職員の指導力等充実が養成校</p>	<p>2項目ともに「3_満たしている」とする割合が多く、「2_改善の余地がある」とする割合が8.3%~16.6%であった。</p> <p>評価視点①~④については、学生の授業評価等から全教員が「4_十分に</p>

調査結果	学校関係者評価	分析
<p>るか」3.20、「教職員の自己教育力向上に対する取組を支援する環境にある」3.20であった。</p>	<p>の基盤を支えるものとなるため、教職員支援の充実に向けてぜひ取り組みをお願いします。</p>	<p>満たしている」と評価できる。個々の教職員が自己の教育力向上にむけて、客観的に自己評価し自己開発できる環境の整備が必要である。</p>
<p>『Ⅷ 広報・地域活動』 2項目 平均点 3.00 領域カテゴリの中でも最下位の平均点であり、2項目ともに平均点以下であった。具体的な評価項目と平均点は「学校をPRするために積極的な広報活動をしている」3.33、「地域社会の一員として、貢献しているか」2.67であった。</p>	<p>・平均点は下降しているが、まったく活動していない訳ではないようなので、コロナ禍の状況が落ち着けば目標達成がし易くなると思われますので頑張ってください。</p> <p>・富良野市HPからのリンクから閲覧する形は、そこを見ようとしている方だけが対象になると思います。例えばフリーペーパーや情報サイトなどでたまたま目にする方が学校運営や学校生活のを知ることができるとは思いますが、そういった方法は如何でしょうか。</p> <p>・人々の生活自体が変化したこの状況で思うような活動ができないことは致し方ないことと思います。積極的に地域に出られる日がまた来ることを期待しています。</p>	<p>「学校をPRするために積極的な広報活動をしている」は「3_満たしている」とする割合が多かった。</p> <p>評価視点の②「ホームページを定期的に更新している」は、現在、リニューアルした富良野市ホームページにアップされ、トップページ暮らしの情報バナー関連リンクより閲覧できる形をとっている。学生生活、行事等については「看心ふらの」で周知しているが、ホームページ自体は定期的に更新するには至っていない。</p> <p>「地域社会の一員として、貢献しているか」の評価尺度では「2_改善の余地がある」とする割合が50%でもっとも高かった。</p> <p>評価視点の①「地域住民を対象とした講和・研修を年1回実施している」、②「地域ボランティア活動に参加している」が課題である。</p> <p>令和4年度は消防署職員を対象とした「分娩時の対応」、西中学生1・2年生を対象とする職業体験を教員、学生が講師となり実施している。地域ボランティアでは、スポーツ交流への参加や選挙等に対応した。感染対策をとりながら地域社会の一員として活動は徐々に拡大していきたい。</p>
	<p>(その他)</p> <p>・今年度も昨年同様、臨地実習は少なかったですが、ここまでの評価が出来たことは大変だったと感じます。</p> <p>・昨年評価させていただいた中で、インターネットの活用、個々のカウンセリングなど実践していたことに感心しました。</p>	

調査結果	学校関係者評価	分 析
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度（4月以降）は予定通りの実習ができることを願いつつ、教員の方々も自己教育向上できることを願います。一年間お疲れさまでした。</li> <li>・コロナ禍の期間は本当に困難なことが多かったと思います。自粛や制限を緩和していく社会の中で、バランスをとり活動・運営をしていくことが重要だと思います。</li> <li>・評価全体から、学校運営にかかわる各位の努力と工夫にて養成校として求められる成果を十分発揮されていると感じます。一方で各項目評価を通じて、充実している項目と課題が残る項目が明確になっており、得意分野の充実を図るか、課題を克服する取り組みを進めるか、さらなる学校運営の充実に向けて検討と検証をお願いします。</li> </ul> <p>このような社会情勢の中でも、より良い教育環境、職場環境を目指した取り組みを進められていることに深い敬意を表します。</p>	